

濟れな病人の樂園

●仁川朝鮮醫院 仁川朝鮮醫院 仁川朝鮮醫院

●仁川朝鮮醫院 仁川朝鮮醫院 仁川朝鮮醫院

西部甘萬坪に亘り

●西部甘萬坪に亘り 西部甘萬坪に亘り 西部甘萬坪に亘り

朝鮮の癩病患者は

●朝鮮の癩病患者は 朝鮮の癩病患者は 朝鮮の癩病患者は

漸次生活の容易な

●漸次生活の容易な 漸次生活の容易な 漸次生活の容易な

交通遮断に達ふの記

●交通遮断に達ふの記 交通遮断に達ふの記 交通遮断に達ふの記

消毒が施され

●消毒が施され 消毒が施され 消毒が施され

産後四十日

●産後四十日 産後四十日 産後四十日

商況

●商況 商況 商況

●商況 商況 商況

仁川米相場

●仁川米相場 仁川米相場 仁川米相場

大阪米相場

●大阪米相場 大阪米相場 大阪米相場

石油の騰貴

●石油の騰貴 石油の騰貴 石油の騰貴

正米眼先安見越

●正米眼先安見越 正米眼先安見越 正米眼先安見越

干瓢騰貴

●干瓢騰貴 干瓢騰貴 干瓢騰貴

京米相場

●京米相場 京米相場 京米相場

演藝案内

●演藝案内 演藝案内 演藝案内

●演藝案内 演藝案内 演藝案内

有樂館

●有樂館 有樂館 有樂館

大正館

●大正館 大正館 大正館

新築開店御披露

●新築開店御披露 新築開店御披露 新築開店御披露

松園

●松園 松園 松園

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

公債満期受領

●公債満期受領 公債満期受領 公債満期受領

浪上義三郎速記


あ い びよう

秋の胃病

赤痢、コレラの徴因

も強壯なる胃液の鹽酸に達へば忽ち減殺せられるから胃を強壯にして置くが何よりの療法で之が醫學者の言ふ胃液の殺菌力である。然るに秋は田中著しく朝夕涼し気候の寒飈はだしき處。夏の間に弱り余る胃は胃液の作用も不十分で重負器官が多量に働かざるを得ず。健胃用心が必要で其れには五大取寄合藥製劑の胃清一善は急げ、今年に

胃病



だ請上に恭賀をせよと申して種々お話を
が訪ねて来る。處か一人として満
な者は来ない、二三日も泊て出立
時には幾何かが持して送る、先刻親
の者が江戸の儲者に請上だ云つ
が、何うせ老い年をして世合を歩
て居るものだから敵なものではあ
まい、會ふと面倒だから一附會は
いで出立の時に幾何かの草鞋錢で
造らう、然し其度人物だか馬鹿見
やらうと先刻から聊いて見て居た
で、スルと唐かから覗いて居た
侯水野日而守此方は六川の臣宮本
藏正名、兩人は禮儀正しく整然と
に手を突いて坐つて居る、お酒を
むにも御飯を食するにも禮儀はあ
もので、茶碗へ口を開けて振込む
ぞといふことはしたしません、是
最前より見て居た左大臣門前、ッ
ン、是は大した先生方だ、今まで
何も来るがそんな者とは違ふ、是
「出て挨拶をしなければなるまい」
衣類を改め羽織を被て其處へ出て
向山門三丁目巴城館電話二九三

齒科診療 橋本 清次
齒科醫學士 橋本 清次

[illegible]

△彼方へ行つて彼方へ曲るんで」
何處へ行くのだから是では判りません
曉雲は襪物を脱つて下駄に聞きまし
た故彼の人にも能く判る様を致へて
れた。致へられた通り來て見るに成
程大臺といふ位であるから大府立派
な住居、前は三方流れ川で、御車を渡
し、後方は森、周圍は高嶺でござい
まして、美事なもので、鑒て兩人は
御車を渡り小門の方より入つて見る
と、今十四五人の奉公人が野良から
歸つて來た所で、細鉢を洗つて居る者
もあり、草鞋を脱いで顔を洗つて居
る者もある、曉雲は玄關へ參つて
「御申しします」何でございま
す「我共は江戸の者、御者に當
てて居りますが、御當宗へ參つて道
を間違ひ難儀をいたします者、御大

坂んでくれましたから兩人は草鞋
脱ぎ足を洗つて彼の別の案内に従
て奥の一室に過る、其内に茶煙草
などを其處へ出して置くことを入
をしろと云ふ兩人は入浴をして、
處に休息をしまして居ると、「さア此
へお出なしまして」と十二疊の座

へ通しました、曉雲が見るに床の
には山水の掛け、窓戸御通し棚は
金の色付、障子襖は、雲丹釘隠し
の文様、天井は襷代杉の柱目、
は築山泉水松の古木を植えて目を

外科一般
泌尿科
皮膚科
花柳病科
院長 安部修三
京城水藥町二丁目金光教會隣
安部醫院
電話四九七番

[illegible]

計時及環指

町本川仁

店商岐索

本舖 中 西 莊 吉

東京 本 町 神 樂 上

櫻 井 口 店 東 本 五 五

城六支


東京本町三丁目
株式會社
百三銀行
支店
電話四五八番

銀行一般の業務精々御便利に御取扱申候
爲換取組先内地各方面並朝鮮樞要の地に有之候

刻日正値送料無料 京阪本町二

正氣堂名刺舖

電話二一九番銀座芝城二八三番



七月

今東京で大評判
名聞の樂店小

白美^{ハクミ}の元素^{ハクミ}色素^{ハクミ}顔^{ハクミ}赤^{ハクミ}顔^{ハクミ}白^{ハクミ}ヤケおしろい^{ハクミ}ヤケ、アレ防^{ハクミ}キメを^{ハクミ}コマカ^{ハクミ}に根本^{ハクミ}的^{ハクミ}色^{ハクミ}白^{ハクミ}、真^{ハクミ}の美人^{ハクミ}美^{ハクミ}男^{ハクミ}子^{ハクミ}松^{ハクミ}本^{ハクミ}大^{ハクミ}藥^{ハクミ}店^{ハクミ}に販^{ハクミ}賣^{ハクミ}す近^{ハクミ}所^{ハクミ}に品^{ハクミ}切^{ハクミ}の時^{ハクミ}に代^{ハクミ}金^{ハクミ}求^{ハクミ}の郵^{ハクミ}便^{ハクミ}切^{ハクミ}手^{ハクミ}を送^{ハクミ}は送^{ハクミ}品^{ハクミ}、東京^{ハクミ}和^{ハクミ}泉^{ハクミ}橋^{ハクミ}際^{ハクミ}ゲン^{ハクミ}ン^{ハクミ}液^{ハクミ}本^{ハクミ}舖^{ハクミ}松^{ハクミ}本^{ハクミ}大^{ハクミ}藥^{ハクミ}店^{ハクミ}

ザタラウ鏡をどう色白くなるザン液

小瓶 四十銭
大瓶 八十銭

6-20

秋空晴れて

野に山に 樂じき

葉子は 唯一つ

森ミルク
キヤメル

煙草
代用

當會社特設の
化學試驗部に
於ては
選考博士
丹波敬三氏
藥學博士
岡田孝吉氏
國原岡の選定
せられたる專
任技師數名順
間指導の下に
日日用する
原料を檢定し
て品質の統一
を期す

ボケツト用大甘樹 小甘樹

森永製菓株式會社

すると云ふ他に比類のない特色がある上に、乗と伸が非常に良く濃
も淡も自由に着、其化粧姿は飽迄高尙て毫も厭味がないからです。

皮膚の色艶を増し

色を白く美しく

お顔の小皺を防ぎ

肌理を細く滑に

数ある白粉の中、御園白粉が貴夫人令嬢方に非常に愛用せらるゝの
は、他の白粉とは其の品質が全く異ひお試しになれば直お判りです。

御園白粉

貴夫人令嬢方に盛んに愛用せらるゝ

料 御
元膏發品粧化園御
店商屋見丸

料 御
鋪本品粧化園御
園蝶胡東伊

(191)

女鳩



(一四〇) その夜
源太は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、



源太は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

出で、始めてその顔が分つた。二人は、鳩子に居たけれど、何者か、洞の外に立つて、覗き込んでゐる。源太は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

大野は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

大野は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

大野は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

大野は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

大野は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

大野は、何の爲にいきなり銃を握つて打出したのか。鳩子も大野もその意を知らなかつた。或は、彼は、精神の壓迫から發した狂行爲であらう。二人は、小居に居たのは九時少し前だつた。見るに、彼は、銃を握つて、温かな頬の裏に、快げな夢を語り、源太は、源太と小居の間の、

浪平板 鐵 洋釘
店支城京又田福 目丁三通門大府城京
二九二城京金貯替振 二二一電長

産婦人科
本院 中央婦人病院
分院 中央婦人病院

最新家庭常備藥
救急 家庭常備藥

白粉
白さに艶があり
お化粧崩れせぬ

白粉
白さに艶があり
お化粧崩れせぬ

白粉
白さに艶があり
お化粧崩れせぬ

かっけ
陸軍一等軍醫正
日本獨政府專賣特許

印鑑
民籍第一部地方係編纂

印鑑
民籍第一部地方係編纂

印鑑
民籍第一部地方係編纂

印鑑
民籍第一部地方係編纂

印鑑
民籍第一部地方係編纂